

平成 30 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会 第 3 回会議概要

<開催日>

平成 30 年 7 月 13 日（金）

<場所>

本庁舎 6 階 第 2 委員会室

<出席者>

外部評価委員（5 名）

山口道昭、岸本幸子、小菅知三、田中健士、横倉泰信

事務局（4 名）

宮端行政管理課長、池田主査、吉江主査、原田主任

<説明者>

産業振興課長

<開会>

【部会長】

皆さん、おはようございます。

ただ今から第3回新宿区外部評価委員会第3部会を開催します。

本日は、外部評価の実施に当たり、お手元の次第のとおり、ヒアリングを実施します。委員の皆様は外部評価チェックシートが配られていますので、適宜、メモ等の書き込みを行いながらヒアリングをしてください。

それでは、ヒアリングを実施します。

本日は、文化観光産業部の皆様にご出席いただいています。

個別施策Ⅲ－11「魅力ある商店街の活性化に向けた支援」について、個別施策を中心に総合的な視点で2時間程度ヒアリングを行います。

はじめの30分程度で、施策評価シートについて、評価や取組内容などをご説明いただきます。また、前回のヒアリングにおける補足や追加の説明などがあれば、あわせてお願いします。

その後、残りの時間で各委員から質問を行います。質問が終了しなかった場合などは、追加で文書による質問をさせていただく場合もあります。

それでは、説明をお願いします。

<事業説明>

個別施策Ⅲ－11「魅力ある商店街の活性化に向けた支援」（説明者：産業振興課長）

【部会長】

ありがとうございます。

新宿区総合計画には、個別施策Ⅲ－11「魅力ある商店街の活性化に向けた支援」について、「めざすまちの姿・状態」、「現状と課題」、「施策の方向性」、「各主体の主な役割（例示）」、「成果目標」が記載されています。めざすべき状態から見て、現在の施策の進捗などがどのような状況なのかということの評価をしていきたいと考えています。

区の役割としては、「多様な主体との連携促進や支援」、「商店会サポーターを通じた支援」、「都と連携した補助金による商店街の支援」の三つがあります。支援の方法は様々あると思いますが、例えば、施策評価シートの「総合評価」欄には、「新宿応援セールを行い、区内商店街の消費拡大に努めました。」と記載があります。この応援セールを行ったことによって、どのくらい消費が拡大したのかということは分かるのでしょうか。

【産業振興課長】

新宿応援セールについては、経常事業541「商店街消費拡大推進事業」の中で実施しています。具体的には、スクラッチくじ方式の抽選券を配布し、金券が当たるというものです。新宿区商店会連合会に委託して実施していますので、区内商店会で配る形となります。配布率は99.9%、換金率は69.6%となっており、換金率が低い状況です。

このスクラッチくじによって、どれほど消費が拡大したのかということを測ることは難しいですが、アンケートでは売上が増加したという回答をいただいています。

【部会長】

この事業は、いつごろから実施しているのですか。

【産業振興課長】

平成21年度から実施しています。

【部会長】

事業開始からだいぶ経っているので、事業を実施する前と実施した後を比較するのは難しいということですね。

【産業振興課長】

平成30年度は、換金率が低いことを改善するために、金券に1000円券を入れることとしました。これまでは、100円券と300円券だったのですが、100円券が当たってもなかなか使用しないのではないかとということもあり、新宿区商店会連合会と協議の上、平成30年度については、1000円券と100円券とすることとしています。まだ結果は出ていないので分からないのですが、少しでも換金率が上がるように取り組んでいるところです。

【部会長】

アンケートでは売上が増加したという回答をもらってるとのことだったのですが、回収率は

どのくらいなのでしょう。

【産業振興課長】

アンケートの回収率は約8割で、売上増の効果が見られたという回答は79.7%です。

【委員】

スクラッチくじ方式で金券が当たるというキャンペーンとのことですが、その金券効果や利益について十分評価されているか不明な感じがします。この事業を実施することで、消費拡大につながっているのでしょうか。

【産業振興課長】

平成30年度より金券に1,000円券を入れるようにしたと説明しましたが、1,000円券については、1,000円券だと単純に使われて終わってしまうのではないかという意見もありました。しかし、これまでのアンケートで、売上の増加につながっているという回答が多かったことも事実です。平成30年度は、全個店にアンケートを配りましたので、本当に売上につながっているかどうか、今後、検証していきたいと思います。

【委員】

商店会サポーターについてですが、その機能や役割等について教えてください。

【産業振興課長】

商店会サポーターは、あくまでサポーターという立場ですので、主体となるのは商店会です。事業に対する支援や情報提供、書類作成の指導などを行う場合はあるかもしれませんが、商店会に対して意見を述べるという立場ではありません。

商店会サポーターになるための資格は特に設けていませんが、主に東京商工会議所のOBや中小企業の地域支援をしていた方などにやっています。そのため、商店に必ずしも特化しているわけではありませんが、中小企業の支援策を理解している方が商店会サポーターとして働いているという形です。

【委員】

商店会サポーターは、新宿区商店会連合会ホームページ「新宿ルーペ」の運用支援も行っているのでしょうか。

【産業振興課長】

「新宿ルーペ」の運用支援も行っています。しかし、商店会によって「新宿ルーペ」の活用度合いが違うということもあり、たくさん情報を載せている商店会もあれば、あまり載せていない商店会もあるという状況です。

【委員】

「新宿ルーペ」に情報を掲載したほうが、商店会にとってもメリットがあるように思うのですが、あまり載せたくないという思いがあるということなのでしょう。

【産業振興課長】

区としても「新宿ルーペ」に情報を掲載したほうがメリットがあると考えています。しかし、商店によっては、あまりIT化を歓迎していないところもあるような状況です。

【部会長】

商店会サポーターの支援の対象は、区内の商店会や同業組合なので、個店に対するサポートはやらないのでしょうか。

【産業振興課長】

商店会を軸に依頼された場合は、支援します。

【部会長】

例えば、自分の店を「新宿ルーペ」に載せたいという要望がある場合は支援するのですか。

【産業振興課長】

そのような要望があれば、もちろん支援します。なるべくご本人の意向に沿うような形で支援しています。

【部会長】

商店会サポーター制度は、いつから実施している事業なのでしょうか。

【産業振興課長】

商店会サポーターは、平成19年度から実施しています。

事業を開始した当初は補助金の相談が多かったのですが、最近では商店会の運営についての相談なども受けていますので、その中で商店会サポーターの担っている役割は大きいのではないかと考えています。

【委員】

商店街の位置付けとして、地域コミュニティの一つであると説明していただきました。例えば、高齢者の安心・安全の視点で見たときに、コンビニが高齢者の安心・安全の拠点になっているような場合があります。コンビニが高齢者への商品の配達を中心にして、見守りという点で機能している、これは良い取組だと思います。

子どもの安心・安全も含めて、高齢者と子どもの見守りなどの拠点活動が、新しい商店街活動の一つのポイントになるのではないかと思います。この点に関してはどのように考えますか。

【産業振興課長】

コンビニに商店会に入っていただくに当たり、例えば、店長にそのような権限があるのかについても不明な部分があります。また、コンビニによってはフランチャイズ契約の関係で、地域活動に参加できないという話も聞いたことがあります。しかし、コンビニについては、24時間営業という点も含めてメリットとなる部分は多くあると思いますので、今後、どのように商店会に入っていただくかについては、課題として検討していきたいと思います。

子どもや高齢者の見守りについては、防犯カメラを設置するなど、既にそのような取組は実施しており、商店街の防犯面での役割は非常に高いと考えています。

【委員】

コンビニに商店会に入ってもらおうという点についてですが、そのような調整や働き掛けは区の本来的な役割ではないかと思います。コンビニに商店会に入ってもらおうための取組などは何かしているのでしょうか。

【産業振興課長】

コンビニは24時間営業ですので、災害時の拠点になります。そのため、各自治体において連携を進めているところです。新宿区でも区長、新宿区商店会連合会会長とともに、災害発生の際の協定の申入れ等はしています。

【委員】

新宿区総合計画に、成果指標「商店会数」とあり、その目標水準が「維持」となっています。しかし、施策評価シートの「課題」欄に「会員の高齢化等に伴い、商店会等の組織力の低下が懸念されます。」と記載されているように、区内の商店会数が現状の104から減少していく可能性は十分にあるのではないかと考えます。

今後この104ある商店会を支援して維持を目指すのであれば、各商店会についてどのように分析しているのか、どのような対策をしていくのかを教えてくださいと思います。

【産業振興課長】

区内には、大きなイベントを実施している商店会もあれば、そのような取組には消極的な商店会もあります。また、各商店会の環境や状況によって、いろいろなにぎわいの創出の仕方があると思います。

しかし、商店会をお店が集まっている場所という一つの面で捉えたとき、重要な資源の一つであると考えますので、何もせず無くしてしまうのはもったいないという部分もあります。その中で、区としては、まちを活性化したいと思う人がいる限り、支援していかなくてはいけないと考えています。基本的には、人が集まる魅力的な商店街づくりについては、商店会が担うという形での役割づくりのための支援と捉えています。

【部会長】

本質的な部分での質問となりますが、にぎわいということは本当に必要なのでしょうか。区民の暮らしから考えれば、例えば、近くの商店街がなくなっても、近くに買い物をする場所があれば良いのではないかとという視点もあると思います。商店会数を維持するという目標と現状との分析などはしていますか。

【産業振興課長】

区として、商店会が減っても良いという考えは持っていません。ご指摘いただいたように、区内では商店街がなくなったから買い物に困るということは、基本的にありません。しかし、商店街というのは、地域を構成する重要な一つの要素であり、一員である、より良いまちづくりを目指していく中でのパートナーであり、協働者であり、担い手であるという認識を持っています。そのため、商店会を減らすという考えはありません。

【部会長】

商店会をなくさないために、どれだけの費用をかけるかという点で、費用対効果の問題が出てくると思います。商店主が高齢化していく中で、商店会を維持するためには、より多額のサポートが必要になるのか、区としてこれまで以上に予算をかけて支援していくべきなのかなどの点についてはどのように考えていますか。

【産業振興課長】

商店主の高齢化については、各個店の問題になってくると思います。区として個店に対する支援はほとんど行っていません。個店については、それぞれの経済原則の中で経営していただくと考えていますので、商店街を残すために個店に対して何か支援をするという考えは持っていません。

しかし、事業承継という課題については、支援をしていかななくてはいけないと考えています。事業承継について、商店街の方がなるべく早いうちから頭に入れて、活動していただく必要があります。今後、事業承継については、個店支援という中で取り組んでいこうと考えているところです。

【委員】

経常事業538「生鮮三品小売店活性化事業」についてです。実績として「伊那市にてアスパラガス農家との交流研修会を開催 参加43名」と記載がありますが、これは伊那市に行って研修会を開いたということなののでしょうか。これについて、費用はどれくらいかかっているのでしょうか。

【産業振興課長】

アスパラガス農家との交流研修会については、伊那市に伺い、アスパラガス農家の生産現場を見てくるというものです。費用については、バスの借り上げ代と有料道路代で217,350円です。

【委員】

この事業における効果はどのように判断していますか。

【産業振興課長】

交流研修会自体の効果は数字ではなかなか見えないものです。平成30年度は、牛肉の生産現場という形で伊那に伺いました。生産者の方にいろいろなお話を聞き、それを自分たちが販売する際にいかしていく、あるいは、消費者に伝えていくということを目的として実施していますので、どのように役立てていくかは、小売店の方に判断していただければと考えています。

【委員】

関連しての質問ですが、生鮮三品小売店連絡会は、加盟数が減少しているのではないかと考えますが、どのような推移となっているのでしょうか。

【産業振興課長】

生鮮三品小売店連絡会の加盟数については、減少を続けています。平成9年度は207店舗が加盟していましたが、平成30年度は56店舗となっています。

【委員】

生鮮三品小売店連絡会の方が活動することにより、区や区民にとってどのようなメリットがあるのでしょうか。

【産業振興課長】

生鮮三品小売店連絡会は、産直事業から始まりました。当初は区民に対して産地直送の新鮮

なものを提供しようという目的で開始したのですが、最近ではスーパー等でも産地直送はあります。そのため、加盟店も減ってきています。その中で、活動実態にあわせて、現在の取組をしているところです。区としては、それを補助するような形で支援しており、区民に対して一定の効果はあると考えています。

【部会長】

生鮮三品小売店連絡会の自主的な活動に対する支援とのことですが、活動自体が形骸化ししまっているということはありませんか。

【産業振興課長】

伊那市との交流研修会は、平成30年度で3年目になります。新宿区と伊那市は姉妹都市であるため、職員の交流を実施しています。現在も、新宿区の職員が伊那市へ派遣になっており、そのような交流事業も含めて交流研修会を実施しているところです。しかし、行き先をそろそろ変えようかという話などは会員内の役員からも出てきています。

【委員】

取組内容として、魚のおろし方教室、生鮮三品食材を使用した料理レシピの作成と配布、伊那市生鮮三品生産者との交流研修会とありますが、これらの取組によりどのように販売が促進されたのか分かりません。

【産業振興課長】

魚をおろす機会もなかなかない中で、魚のおろし方教室を通じて魚を買っておろしてみようとするかもしれません。それにより魚屋の売上がどれだけ上がったかは測れないですが、そのような効果はあるのではないかと考えています。

レシピの配布についても、そのことによりどれだけ生鮮三品小売店の売上が上がったかを測ることはできませんが、生鮮三品小売店連絡会の中で、お客さんとのコミュニケーションのツールとしてこのような取組がしたいという声があったため、支援させていただいているところです。この点について、売上につながっていないのでやめるべきと言われてしまうと、心苦しいところもあります。

伊那市との研修交流会については、勉強会の要素もありますのでこれに関しても効果を測ることは難しいです。しかし、区としては、予算規模に見合った効果はあるのではないかと考えています。

【委員】

生鮮三品小売店連絡会は、以前からある会ですので、これまでの形態と同じように支援を続けているのだと思います。しかし、その必要性について検証するという姿勢があまり見られていないので、検証をしていく必要があるのではないかと思います。

【産業振興課長】

支援の必要性について検証をしていくことは、今後考えていきたいと思います。生鮮三品小売店連絡会には、現在、56店舗が加盟しており、会として活動ができる店舗数であると考えています。しかし、会員の皆様の高齢化も進んでいるため、会として活動ができなくなる、もし

くは、活動に実効性が伴わなくなるという場合には、事業の見直しについても考えていく必要があると思います。

【委員】

経常事業540「新宿区商店会連合会への事業助成」についてです。平成29年度は実績なしのことですが、実績のない状況が続いているのであれば、事業としての必要性はどのように考えていますか。

【産業振興課長】

事業として、実施していく必要はあると考えています。このような補助事業については、自己負担が発生するということが難しいところであると思います。本事業は、100万円を上限として補助対象経費の3分の2を助成するものですので、最大150万円の事業ができることとなります。その場合には、50万円の自己負担が発生することとなります。その自己負担をしてまでどのような事業を実施していくかについては、新宿区商店会連合会の考えになりますので、結果的には申請までには至らなかったということになります。しかし、今回は申請できなかったけれども、新宿区商店会連合会としては事業を実施していきたいという話もいただいていますので、今後も事業は継続していく考えです。

【委員】

計画事業83「商店街空き店舗活用支援」については「計画以下」と評価している一方で、経常事業542「商店街空き店舗情報の提供」については取組状況を「適切」としています。類似の事業のように感じますが、どうして評価が異なるのでしょうか。

【産業振興課長】

経常事業542「商店街空き店舗情報の提供」という事業は、不動産業者に依頼してデータをもらい、それを「新宿区商店街空き店舗検索サイト」に載せるという事業です。そのため、情報を手に入れてきてサイトに載せるという手法は、基本的には「適切」と考えており、今後も継続していきます。しかし、より利用していただけるサイトにするためには、掲載したデータの内容や出し方などについて、見直していく必要があるのではないかと考えています。

また、前回のヒアリングでも説明しましたが、「新宿区商店街空き店舗検索サイト」には通常の物件情報を掲載しています。計画事業83「商店街空き店舗活用支援」の指標1「空き店舗活用支援融資貸付件数」の実績は、空き店舗活用支援融資貸付資金を利用した件数ですので、通常の契約の中で借りられる件数は含まれません。しかし、年間の実績として2、3件では少ないと考えていますので「計画以下」と評価しているところです。

ですので、計画事業83「商店街空き店舗活用支援」の空き店舗活用支援融資貸付資金の利用実績は伸びなかったものの、空き店舗の情報提供そのものについては「適切」と考えています。

【部会長】

では、本日のヒアリングは以上で終了とします。

二日間にわたり、お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

(説明者 退室)

【部会長】

それでは、本日の振り返りにはなりますが、施策だけでなく個別の事業についてもいろいろ議論があったかと思います。それらを含めて委員個人としての評価をする際の参考として頂ければと思います。

本日はこれで閉会とします。

お疲れさまでした。

<閉会>